

## 市長の新たな提案により学校建設をした場合の Q&A

新たな提案の市民説明会で、ご質問のあった事項や、保護者の方が心配されること、課題と感じられることについてまとめました。

### ソフト面の課題

- 校長、教頭、先生の数は減りませんか。保健室の先生や事務室の先生はどうなりますか。

校長 1 名、副校長 1 名、教頭 2 名となり、管理職の先生の人数は変わりません。教職員の数は学級数で決まるため、一貫校にしたからといって先生の数が減ることはありません。保健の先生や事務の先生も 2 名ずつおります。

- 6 年生時の卒業式や修学旅行はどうなりますか。

卒業式、入学式に代わる、修了式や進級式といった節目の行事を実施する予定です。また、前期課程のまとめの宿泊行事として、「修学旅行」を行う予定です。

- 6 年生のリーダー性が低くなりませんか。

前期課程としては最終年度の学年として意識をもてるような指導、集団登校での役割、児童会が中心になって行う行事での役割などを通して、6 年生のリーダー性を培うことは可能だと考えています。

また、後期課程(中学生)になると、小中別々の学校においても 6 年生で培ったリーダー性が発揮できないという課題もあり、本市では、小中一貫教育を進めるにあたり、「4(小 1~4)-3(小 5・6・中 1)-2(中 2・3)」の柔軟な学年の区切りを設け、5, 6 年生のリーダーとして、思いやりを持った行動ができる 7 年生(中学 1 年生)の育成をめざしています。

- 中学生の定期テストの時に、小学生が我慢しなければならないのが心配です。逆に、中学生がテストに集中できないのではないかと心配もあります。

他市の義務教育学校からは、「前期課程(小学校)児童にとって後期課程(中学校)の生徒のテストや部活等の様子を見ることは、将来の自分自身のイメージを持つことができる。特に、自分の進路がイメージできる」というように、我慢という否定的に捉えられていません。

また、後期課程の生徒は、校舎の4階は 8.9 年生(中 2、中 3)だけであり、

3階の7年生(中1)は5,6年生とは特別教室や中庭をはさんでおり、テスト中に前期課程の児童の活動による大きな影響はないものと考えられます。

- 人間関係が9年間続くので、いじめなどがあった場合、解消されにくくなりませんか。

義務教育学校では、前期課程(1~6年生)と後期課程(7~9年生)の多くの先生が子どもたちを見守り、支援や指導にあたります。いじめなどが起きた場合においても、スクールカウンセラーなどと連携しながら学校全体で組織的に対応し、解消を図ります。また、他の学校と同様に、人間関係に配慮が必要な場合は、年度末のクラス替え等も活用しながら心のケアに努めます。

- 集団登校は何年生までですか。

前期課程(1年~6年生)の児童が集団登校になると考えています。

- 中学生の悪いところを、小学生がまねしませんか。

他の小中一貫校の状況をお聞きすると、上級生には下級生への思いやりが見え、下級生は上級生へのあこがれの気持ちを持って過ごしており、心配していたようなトラブルはないと聞いています。

また、もし、令和7年に義務教育学校が開校したとしたら、交野みらい小学校の現4,5,6年生が後期課程(中学生)であり、その後も交野みらい小学校の児童が後期課程の生徒となるわけですので、いくつかの学校から集まった児童・生徒で構成される義務教育学校ではありませんので、生徒指導上のトラブルは他市の一貫校開校時より一層少ないと考えます。

- 授業時間が異なりますが、チャイムなど困りませんか。

チャイムを校舎内でも分けて鳴らす事ができます。

## ハード面の課題

- 1000人が学ぶ校舎なので狭くないですか。ぶつかったりとか事故やケガが心配です。

グラウンド面積は文科省の基準をクリアしています。が、グラウンドが狭いと心配の声もありますので、隣接地を取得して面積を広げより良い環境になるよう検討しています。

体育館は今の中学校の約 2 倍の面積で、サブアリーナもあります。広い屋上テラスも子どもたちの活動場所となります。

混雑が心配される登下校時の安全を考え、1, 2 年生は下足室を通らずバルコニーへの階段を上り直接教室に入れるようになっていきます。

さまざまな学習や活動ができるよう教室、廊下は市内の他の学校より広くなっており、余裕のある校舎になっています。

また、災害に強い建物となることから、避難する際の危険度も他の施設より低いと考えます。

- 保健室は一つしかないのですか。小学生と中学生が同じ保健室になるので心配はありませんか。

交野市内小中学校の養護教諭からの意見も聞き、保健室は 1 室での運用としています。2 教室分程度の十分な広さがあり、入り口はローカ側に 2 箇所、また、グラウンド側からも直接出入りできます。ベッドには仕切りカーテンを設置し、必要に応じて部屋を間仕切れることもできます。

保健の先生も 2 名配置されます。

- 教室や支援学級は十分確保されますか。

予想される児童生徒数の最大人数に合わせて教室数を確保しています。学年ごとに多目的室も設置しており少人数授業なども可能です。

支援学級は 5 教室分(間仕切りにより 10 教室が可能)あり、十分対応が可能です。

- 障がい者や車いすでも、利用しやすい学校ですか。

ユニバーサルデザイン計画でバリアフリーの学校となっています。エレベーターを設置し、各階には多目的トイレ(みんなのトイレ)があります。出入口には段差を無くし、高低差がある所にはスロープを設置する等配慮しています。

重度の障がいのある児童生徒には、1階の保健室の隣に支援学級を配置しています。グラウンドにも面しており、何かあった時には救急車を横に付け、緊急搬送しやすいようにしています。

- トイレの数は十分にありますか。

基準に基づきトイレの数を設置しています。心配される低学年(小学1・2年生)の便器の数は当初予定より、増やす方向で進めています。

- 新しい校舎の壁はガラス張りになっているイメージがありますが、地震の時にガラスが割れて飛散し、避難の妨げになることはありませんか。

既存の学校に比べると、ガラスの使用量が多く開放感のある設計となっています。中庭に面した吹き抜け部分等の外壁はガラスですが、新耐震基準で設計された校舎で、窓ガラスには飛散防止フィルムを張り付けるなどしており、安心して避難できるよう計画しています。

- 学校プールは防火水槽としての機能もあると聞いています。新しい学校にプールがありませんが、防火対応に問題はないのでしょうか。

地下に防火水槽を設置し、火災にも備えています。

- グラウンド拡張の2期工事で、子どもの活動が制限されたり、工事車両の通行で危険が生じたりしませんか

すでに学校が完成し、防球ネットやフェンスが設置されていること、また学校の周囲には歩道が整備されていることなどから、2期工事中に子どもの活動制限等はほとんどないと考えられます。

- 放課後児童会の活動スペースは十分ありますか。部屋の間仕切りとかは、子どもの状況や数で柔軟に対応してもらえますか。

放課後児童会が利用できるスペースは6教室分程度を確保する予定です。  
また、子どもたちの状況等により、間仕切り等によりスペースを区切ることも可能です。